

## 我が変遷（オアシスの道）

オアシス脳神経クリニック 小 池 右（3期生）



平成元年の卒業で東京の河北総合病院で臨床研修後、横浜市立大学の脳神経外科学教室に入局、卒後10年は神奈川県内の病院で一般脳神経外科医として勤務しました。その後の10年は前半5年は宇宙航空研究開発機構(JAXA)で宇宙医学の臨床と研究、後半の5年は週の3分の2はJAXA勤務、3分の1は一般病院で脳神経外科のsubspecialtyとして機能神経外科分野での診療に特化しパーキンソン病の手術治療等を中心に病院勤務をしてきました。卒後の20年間、前半は脳神経外科の一般臨床医として正常環境に在りながら病気や外傷を負ってしまった患者さんの診療に従事し、後半は健康な身体／精神を持ちながら敵対的環境（微小重力による筋力低下、宇宙放射線暴露、閉鎖環境におけるストレス）に身を晒さなければならない宇宙飛行士たちに如何に健康な状態を保ってもらおうかということに尽力してきました。開業前の5年間は週の3分の1が病院勤務だったので両方の立場を経験することができ、熟考の末、宇宙医学も魅力ある分野ではあるけれど、やはり自分は病気や外傷の患者さんのために日々尽力する生き方をしたいと思うようになり、卒後21年目となる平成21年10月に茨城県牛久市に「オアシス脳神経クリニック」を開業いたしました。この地に開業した理由は既に牛久市内に自宅を建てていたこと、また隣接するつくば市内の

JAXA筑波宇宙センターで非常勤として宇宙放射線の人体への影響の研究、そして日本人宇宙飛行士の医学審査委員を現在も継続しているためです。

開院し2年半が経ち、近隣に周知されるとともに患者数も増えてきました。脳神経外科、神経内科を標榜しているのですが本来ならCT、MRI両方の設備保持が望ましいのですが自院はまだCTのみです。将来的にはMRIも設置の予定ですが現在は近隣の病院と連携を取り必要なケースの撮影をお願いしています。てんかんの患者数も増えてきましたが電子脳波計があるので検査時間は比較的短くて済み便利です。またほぼ新興住宅地と呼べる地域に開院したため、子供が若い夫婦が多く予防接種の希望者が極めて多いです。最近は定期・任意を含め種類が増え、同時接種を含めたスケジュールも複雑化してきており、親御さんたちへの啓発のために自分自身の小児科領域の再勉強が必要になっています。当院の特徴として他の医療機関では殆ど行われていない「うつ病に対する連続経頭蓋磁気刺激治療」があります。機能神経外科関連の治療として当院では開業以来行っていますが、今年2月にNHKスペシャルがその特集を放映してから希望する患者さんが増えました。米国ではすでに2008年に認可されている治療ですがわが国ではまだ未認可のため自由診療扱いです。今後症例を増やし、evidenceを積み上げ、この治療がわが国でもより早期に認可されるよう微力ながら尽力したいと思っています。